ユニオン20周年
未来・3000号
記念誌＆祝賀会

郵政労働者ユニオン（郵崎労）結成20周年
「未来」3000号発行　祝賀＆記念誌

2010 年 10 月 30 日

郵政労働者ユニオン九州地方本部＆長崎支部

郵政ユニオン長崎結成
20周年祝賀会に参加を

各位

郵政労働者ユニオン九地本（旧・郵政長崎労働組合＝郵崎労）は、今年結成20周年を迎え、9月5日に定期大会を開き、21年目の歩みを始めました。

また、結成以降、朝ビラ、門前配布で発刊を続けてきた機関紙「未来」も、この10月18日の発行で、3000号に到達します。

この二つの慶事を組合員として喜び、お互いの健闘をたたえ合うために、九地本&長崎支部は祝賀、記念行事として記念集を発行し10月30日に祝賀会を開催します。

思えば、1989年秋、総評解散という歴史的変動の中、全逓を離れ、全労協の独立労組の旗を揚げるという、大洋へ、海図なき船出に似た、小の葉集団の 20 年は、文字通り苦難との闘いであり、冷や汗の連続でした。

ともあれ、そうした難関を乗り越え、いま小数派ながら全国ユニオンとして存在し、郵政で働く人のために「なくてはならない労組」としてその位置を確立しつつあります。

そこで、九地本は20周年の節目の祝賀行事を行い、また「20年の記念集」を出すこととしました。組合員各位、また元組合員の皆様にはぜひご協力をお願い申し上げます。みなさまのご参加と、思いを寄せていただき、楽しい、有意義な祝賀会と記録記念誌としたいと思っております。

記

名称：郵政労働者ユニオン九州地方本部（旧、郵崎労）結成20周年、
「未来」発行3000号記念、祝賀行事実行委員会

行事：１、祝賀会を開催します。10月30日（土）18：30分～、
場所、セントヒル長崎、会費無料。全員の参加を要請します。
2、記念誌を発行します。
原稿は、全組合員に執筆をお願いいたします。テーマと文字数は自由。写真その他なんでもあれば、掲載します。原稿期日は10月15日まで。

以上です。

よろしくお願いいたします。

2010年9月15日

郵政労働者ユニオン九地本結成20周年記念誌発行委員会
実行委員長、山本恭郎

郵政ユニオン結成20周年、「未来」3000号！祝賀会

式辞

第一部
1、開会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18：30
2、代表挨拶・・・郵政労働者ユニオン九地本委員長、山本恭郎
3、来賓ご挨拶
　①、長崎地区労、加世田書記長
　②、金子三智郎長崎県議、
　③、井原東洋一長崎市議
　④、全労済・原田事業推進本部長
　⑤、長崎人権問題研究所、藤沢所長
　⑥、郵産労九州地方本部、森田委員長
　⑦、国労鉄建公団訴訟長崎原告団、深浦団長
　⑧、郵政労働者ユニオン近畿地本、家門委員長
　⑨、ピースサイクル広島、新田秀樹様
　⑩、国労鉄建公団訴訟原告団を支える会・小杉代表
　⑪、新社会党長崎県本部、荒木書記長
　⑫、金子県議選対本部、中島照次事務局長

4、メッセージ紹介
5、乾杯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19：15
6、懇談
7、結成大会ビデオ上映

第二部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20：00
8、来賓のご挨拶
9、組合員の紹介とあいさつ。分会別
10、そのほかのみなさま
11、閉会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20：40

記念誌　目次

Ⅰ、メッセージ
1、山本恭郎・郵政労働者ユニオン九地本委員長
2、松岡幹雄・郵政労働者ユニオン中央本部委員長
3、岡記念館・髙実康稔理事長
4、郵政労働者ユニオン関東地方本部
5、郵政非正規センターゆい、稲岡理事長
6、郵政人権を守る会、池畑会長、阿佐事務局長
7、谷本大岳、郵政労働者ユニオン中国、広島東支部
8、伝送便、横田編集長
9、名古屋哲一、元郵政 4.28 免職者
10、国労鉄建公団訴訟長崎原告団、深浦義孝団長
11、篠崎正人、佐世保在
12、野口賢治、国労・鉄建公団訴訟長崎原告団事務局長
13、山崎みきこ、国労・鉄建公団訴訟長崎原告団を支える会
14、森谷和司、鳥取県米子市（ピースサイクル）
15、松崎涼子、国労・鉄建公団訴訟長崎原告団を支える会
16、今村久孝、元郵政労働者、秋田県
17、秋富不二男（元郵政労働者、千葉在）
18、郵政倉敷労働組合
19、川瀬正博（元全九電労組）

Ⅱ、一言から。1、岡島強（元郵便分会）　2、永津啓二（元１集分会）　3、吉田和男（元３集分会）　4、原田英昭（元３集分会）　5、島田次男（元市内分会）　6、田中福徳（元３集分会）　7、千手はつみ（元福岡支部）　8、城戸洋（元２集分会）

Ⅲ、記録集 20 年思い、感想文（組合員＆退職者）

1、大石眞三高（ゆうちょ支部）
2、小島滋（長崎西彼杵支部）
3、比嘉宏（沖縄、那覇東支部）
4、松田運生（ユニオン教宣部長）
5、松江国晴（長崎支部長）
6、向井宏（書記長）
7、坂井貴司（福岡支部）
8、山田武明（地本執行委員）
8、井川登喜男（元保険分会）
9、島田次男（元市内分会）
10、千手はつみ（元、福岡支部、芦屋局）
11、加茂俊治（元福岡支部、芦屋局）
12、中島義雄（元３集分会）

Ⅳ、編集後記

郵崎労結成から２０年の想い

２０１０年１０月３０日
郵政労働者ユニオン九州地方本部
委員長　山本恭郎

１９９０年５月に職場で新しい労働組合「郵政長崎労働組合」を４０名の仲間と一緒に結成してから２０年が過ぎました。

当時は、労働界再編が言われ、それまで闘う総評と労使協調の同盟が統一し、連合が出来ました。私がいた全逓も総評の一員として連合に行くことが決まり、その連合では職場で闘えないし、ものが言えなくなり、戦前の大政翼賛会になってしまうと主張し、私たちは、全逓を脱退し反連合・非全労連の独立労組を立ち上げ、長崎での全労協運動が始まりました。

それから２０年､情況は大きく変わりました｡ひとつは政治です。戦後続いていた自民党政権が民主党にとって代わられ、それまでの政権運営の皮が次々と剝がされています。もうひとつは、三公社五現業と言われた国営の企業が、全て民間の会社になりました。私たちが働く職場も、郵便・貯金・保険の事業が一体で運営されていたものが、それぞれに分割され民間会社となりました。そしてそこで働く労働者は競争をあおられ分断されています。

いま、私たちの組合は結成当時の「郵崎労」から「郵政九州労働組合」そして現在の「郵政労働者ユニオン九州地方本部」と発展・拡大してきました。結成当時の「郵崎労」から１９９７年には「郵九労」に組合名が変わったのは、あらたに沖縄や福岡で組合員が加入し、長崎だけではなく九州各地に拡がり、そこに支部や分会が結成されたからです。そして「九州地方本部」になったのは、同じ考えの全国の郵政内の独立労組６組織がこれまでの交流で積み重ねてきた経験を踏まえ全国統一され「郵政労働者ユニオン」の一員となった結果です。

「郵崎労」を立ち上げてから、自立した闘いとして地域の仲間の皆さんと取り組んできた独自の運動として、５月１日の全労協長崎地区メーデーの開催。八月に自転車で平和を訴えながら九州を一周するピースサイクル。そして、アジアに再び銃を向けてはならない！として開催してきた、８・８平和を考える長崎集会等々があります。また、職場では「仲間と競争せず、弱い人と共に団結して闘おう」を基本に非正規社員を含め全ての労働者の均等待遇を求め､差別をしない、させない闘いを続けてきました。いまこの闘いの中心は、非正規社員の正社員登用への要求として取り組んでいます。そして、こうした闘いはこの２０年要求への取り組みや、組織の拡大など着実に前進しています。今後も皆さんと一緒に闘っていきたいと思います。

もう一つは、組合の機関紙「未来」の３０００号達成です。

組合結成以来、２０年間その時々の職場や全国の出来事・交渉事項などの情報を、組合の機関紙として欠号する事無く発行を続けてこられたのは、全組合員の協力と、理解はもとより、発刊に直接携わってこられた諸先輩の組合員はじめ、印刷から早朝の通用門前での配布に立たれた組合員の努力があったからだと思います。この組合機関紙を読んで頂いている人を含めて、みなさんに感謝いたします。これからも親しまれる「未来」として発行していきますので宜しくお願いいたします。

郵政ユニオン九州地方本部
委員長　山本　恭郎様

メッセージ

２０１０年１０月２８日
郵政労働者ユニオン
中央執行委員長　　松岡　幹雄

組合結成２０周年、そして機関誌『未来』３０００号達成おめでとうございます。皆さんの２０年前の決断があったからこそ今日の郵政ユニオンが存在しています。その後、郵政全労協が全国組織として統一し労働協約を締結し責任組合をめざす基本方向を指し示してくれたのもユニオン九州の皆さんであったと思います。現在の郵政ユニオンは、この基本路線にたって邁進しているが故に発展を勝ち取っているのです。

機関誌『未来』３０００号達成、これも並大抵のことではありません。これは、組織的な団結、日常活動のたまものでありここに労働組合とは何か、真の姿が凝縮しています。この偉業を全国は真剣に学び取ることが必要です。『未来』は郵政ユニオンにとっても大きな宝です。

私は、２０周年を契機にユニオン九州がさらに大きく飛躍されることを心より期待します。ユニオン本部は、この偉業を皆さんとともにお喜びし、さらに奮闘する決意を固めていることをお伝えし、連帯のメッセージといたします。

平和と人権を守る姿勢にも敬意！

岡まさはる記念長崎平和資料館
理事長　高　實　康　稔

郵政労働者ユニオン九州地方本部結成２０周年を衷心より祝賀いたします。

思えば貴労組の方々との交際は結成以前に始まり、その出発点は山田芳廣教諭に対する分限免職処分の撤回闘争でした。郵政労働者ではなくとも、労働者の不当解雇を許さないという原点に立って、全面的に共闘してくださいました。今も深く感謝しております。この気高い原点は不当労働行為による採用差別と闘い抜いた国鉄労働者との共闘においても貫徹されました。労働者の連帯は言うは易く実現困難な事態にしばしば直面します。貴労組の終始一貫した姿勢に心から敬意を表する次第です。また、近年では労働者の権利であるストライキを極端に避ける傾向が強いなかで、貴労組はこの権利を躊躇なく活かして闘っておられます。それは労働と生活を守るためのやむにやまれない要求があるからに他なりません。「労使協調」路線が多数派の現実にあって、さまざまな軋轢があるに違いありませんが、ストライキを徒に回避しない闘いこそは要求を勝ち取るとともに、労働者の支持と信頼を得る唯一の道であると確信します。貴労組の活動方針を高く評価する所以であります。

私は貴労組の皆さんが平和と人権の重要性をも深く認識され、平和と人権にかかわる運動に絶えず参加協力を惜しまれないことをよく存知あげております。ピース・サイクルに象徴されますように、反核平和運動への積極的な貢献に感動を覚えます。８月９日の朝鮮人原爆犠牲者追悼早朝集会には必ず多数参加してくださいます。日本のかつての植民地支配と侵略戦争を告発して謝罪と補償を訴える岡まさはる記念長崎平和資料館にも多大なるご支援をいただいております。労働運動と平和・人権運動が切り離せない一連のものであると明確に位置づけておられる証であります。

貴労組結成２０周年を祝し益々の発展を祈念いたしますとともに、あらためて深甚なる感謝をこめて「記念集」に拙文を寄せさせていただきます。

郵政労働者ユニオン九州地方本部御中

２０１０年１０月１８日
郵政ユニオン関東地方本部

郵政ユニオン九州地方本部の結成２０周年と「未来」の３０００号達成、ほんとうにおめでとうございます。常に私たちの先頭に立って運動してきたみなさんに深く敬意を表します。

「郵崎労」として出発して大海に船出をして、さまざまな闘いと苦労の中で２０周年を迎えていることと思います。少数で飛び出して何ができるのかという「批判」と「思い」を乗り越えて今があると思います。職場の仲間の信頼を獲得し、多くの正規・非正規の仲間を結集して、組織的にも運動的にも大きく飛躍をしてきていることが､決断が間違っていなかったことを何よりもはっきり示しています。そして　後に続いた私たちの大きな支えと力になりました。

継続は力なり「未来」。の３０００号達成は、このことを、事実を持って示しています。日々、職場に配られる「未来」をつうじて多くの仲間がユニオンへの期待と信頼を寄せ、組織の拡大に結実してきたと思います。３０００号を支えてきたみなさんの苦労と力には、ほんとうに頭が下がる思いです。

ほんとうの意味での労働組合が今ほど求められている時代はありません｡郵政ユニオンの組織と運動が必要とされる時代に入っています。みなさんの一層の前進を期待しています。

２０周年、そして 3000 号達成のお祝い

２０１０年１０月３０日
非正規センター（ゆい）・稲岡次郎

郵政長崎労働組合結成から２０年、未来３０００号達成、おめでとうございます。

現在は、郵政ユニオン長崎地方本部として、郵政ユニオン運動に重要な役割を果たされ、郵政非正規労働者の組織化にも積極的に取り組まれ、期間雇用社員の正社員化・均等待遇の闘いを進められていることに対し、心より敬意を表します。

私事ですが、長崎での郵崎労結成に励まされながら、兵庫の地において兵庫郵政連帯労組を１９９０年５月に結成することができ、そして、現在の郵政ユニオンにつながる郵政全労協の結成に参加することができました。

すでに、兵庫郵政連帯労組の旗揚げに結集した仲間は全員退職となり、２０年という年月の長さを感じます。

しかし、私たちが求めた「あたりまえの労働運動」は、２００４年の郵政ユニオン結成につながり、今、まだまだ少数とは言え、郵政において決して無視できない「なくてはならない労働組合」として大きな前進を遂げています。

現在、非正規雇用が全労働者の３割以上を占め、郵政においては全社員のほぼ半数が期間雇用社員となり、同じ仕事をしながら正社員と期間雇用社員では賃金を含め労働条件に大きな格差・差別があるにもかかわらず、そのことが、何の問題もないかのようにあたりまえの職場状況となってきていることに大きな怖さを感じます。

この状況は、単に郵政や国内情勢だけでなくグローバルな問題としてとらえておかねばなない問題と思いますが、２０年前、私たちが新組織結成を決断する重要な問題の一つであった「労使はよきパートナー」としての「企業防衛路線」そのものが今日の状況を作り上げてきた側面も見落とすことはできません。この問題も今日的課題であると考えています。

３０００号を達成された「未来」の本文枠外に常に掲載されている「仲間と競争せず、弱い人と共に団結して闘おう」これこそが今求められていることでしょう。

労働者が共に生き、人間として尊重され、人間が社会を作り上げることができる社会に向け、２０周年を一つのステップとしてさらなる歩みを開始されている九州の仲間のみなさんと共に歩んでいきたいと思います。

最後になりましたが、「未来」３０００号に関わってこられたみなさん。原稿から印刷、そして配布と大変ご苦労をされたと思います。本当にご苦労様でした。

祝　郵政労働者ユニオン九地本結成 20 周年

２０１０年１０月
郵政労働者の人権を守る全国連絡会
代　　表　池畑　　浩
事務局長　阿佐　勝彦

郵政労働者ユニオン九地本結成 20 周年おめでとうございます。
また、機関紙「未来」の、3000 号達成心よりお祝い申し上げます。

10 月 30 日のご招待を頂きましたが、祝賀会へは都合参加できませんのでメッセージを送らせて頂きます。

昨年、長崎を訪問しました。ユニオン長崎の皆様には暖かくお迎えいただき、そして交流して頂きありがとうございました。長崎の地は原爆被爆地であり、二度目の訪問ではありましたが胸に詰まる思いでした。また、雲仙普賢岳では火砕流現場を見ることも出来ました。

私たち郵政人権では過去「松島正君を救う会」への活動支援を行ってきました。長崎からは驚くほどの郵政関係者からの募金が振り込まれてきました。労働者の助け合いという原点を見たような気分でした。

鹿児島鹿東支部牟田書記長分限免職処分への闘いには、長崎から駆けつけても頂きました。本当にありがとうございました。

招待状には『いま小数派ながら全国ユニオンとして存在し、郵政で働く人のために「なくてはならない労組」としてその位置を確立しつつあります。』との文言が記されていました。組織人数が多いに越したことはないのでしょうが、今日の数を誇る労働組合に、労働者を救済する力、取り組む能力がどれだけあるのか、実績が非常に乏しいのが実情ではないのでしょうか。そもそも、国鉄闘争に結集してこないという現状に「何のための労働組合なのか」と、考えます。

全逓を離れ、全労協の独立労組の旗を揚げるという、大洋へ、海図なき出航した皆様。その判断は正しかったといえるのではありませんか。私たち郵政人権も今後とも共に闘う所存でございます。

本日のご盛会をご祈念いたしております。

郵崎労結成２０周年に寄せて

2010・10・30

郵政ユニオン島東支部・安芸府中支部
旧郵政広島労働組合・谷本大岳

郵政長崎労働組合結成２０周年を心からお祝い申し上げます。

当地の諸行動で、せっかくの祝賀の場に不参加の失礼を冒頭にお詫びいたします。

「女学院山荘会議」での誓い以来、長崎と広島は常に共にあり、あらゆる局面で兄弟組合としての友誼を交わしてきました。

思い起こせば、８９年～９０年は日本労働運動にとって最大の転機でした。

言うまでもなく、袂を分かった連合は、今日その歴史的・犯罪的役割を如実にしています。

重要な時期に重要な判断で間違ってはならない、これが全逓の歴史から学んだ私たちの教訓でした。誤りなき選択ができたからこそ、郵政ユニオンの今日があります。

労働運動の大義に生きる、これこそがいつの時代にも労組に課せられた任務だと思います。

郵政労働運動にとっても９０年がそのスタートでした。小なりといえども、労働者の利益を守り抜く労組の存在は不可欠の立脚点でした。しかしそのスタートは、極困難の連続であったこともまた事実です。「多数こそが力」「分裂でなく団結を」という一見まことしやかな論理が、私たち自身をも支配していました。生木を引き裂く事態も生じました。それでも決然と「大義に生きる道」に踏み出したことを、今は静かに振り返ることができます。

その後の２０年が何より雄弁に郵政ユニオンの存在価値を立証してきました。いまや無くてはならない労組としての社会的地位を確立しています。歴史の必然です。

世界大の恐慌と侵略戦争と労働者概念の喪失が一方の特徴であるとするなら、ＮＨＫですら資本論を現時代に呼び戻し、侵略帝国のノドもとで公然と反戦の大群が声を上げ、ゼネストで国境を越えてノーの意思を示す今日の事態は、歴史の皮肉というべきか、それとも脈打つ労働者階級の復元力というべきか、置かれた立場で結論は異なります。

私たちは確信を込めて「後者である」と言い切るでしょう。

２０年を経過すると代替わりもまた必然です。相俟って、分立を止揚する統一もまた必然となります。時代の要請に応える人材の育成と、「大同小異」の立場から新たな団結を成就することは、次の時代を切り進むための必須の条件です。古い衣を脱ぎ捨て、新しい装いで再出発を期するべく、私たちも生みの苦しみの渦中にあります。先達たちの正反両面の教訓を無に帰さないよう、努力を続けていきます。

長崎・九州の皆様が、今一度この局面において先駆者の任に就かれることを祈念します。　私たちも皆様と共にありたいと重ねて切望しております。

最後に、皆様方が、労働運動の再生と統一に向かう歴史的必然のなかで、２０年の節目を迎えられたことに、そして、今後ますます郵政労働運動の先陣を絶えず堅持され、確固たる進路を切り拓いていかれますよう祈念し、祝意にかえます。

共に闘いましょう！

郵政ユニオン九州地本様

メッセージをお送りします。

----------　　-横田誠司（伝送便編集委員会・編集長）

日頃「伝送便」をご購読いただき、ありがとうございます。
この度の郵政労働者ユニオン九州地方本部結成 20 周年、および「未来」3000 号達成、おめでとうございます。
郵崎労として産声を上げた組織が成人を迎え、これからますますエネルギッシュに活動されることと思います。
そのなかでで生まれた機関紙「未来」も３０００号を達成し、「継続は力」と申しますか、日々の機関紙発行には頭が下がる思いです。
本　誌も長崎をはじめ、九州の皆さんに支えられながら、一昨年３０周年を迎えることができました。ともに肝心なことは、威勢のよい主張より、職場の労働者一人ひとりに依拠した記事と仲間との連帯が、長く続くことができる秘訣ではないかと思っております。
昨年、編集長交代を受けて、新たに着任しましたが、近いうちに長崎に就任のご挨拶にお伺いしたいと思います。
今回、残念ながら祝賀会に出席できませんが、ご盛会をお祈りいたします。

郵政ユニオン九州地本結成２０周年！［未来］３０００号！祝賀会　様

２０１０年　１０月　３０日
名古屋哲一(旧郵政４・２８ネット／元免職者)
(郵政ユニオン東京地本特別執行委員)

メ　ッ　セ　ー　ジ

とてつもない多さを１０００という数字は表しています。千両役者、千里眼、値千金、千尋の深海、千載一遇など。これが３０００ともなると、とてつもない、とてつもない、とてつもない多さとなり、“とてつもない”を３回も繰り返さなけ
ればならず、めんどくさくてしょうがありません。それはともかく、ものすごい数の人と努力と想いとを積み重ねあげての「機関紙・未来３０００号刊行！」、おめでとうございます。

そして、とてつもない、とてつもない、とてつもない多くの読者が、とてつもない、とてつもない、とてつもない多くの励ましや貴重な情報や指針などを、「未来」から得てきたことでしょう。
愛読者の一人であるボクも、以前はわざわざお手数の郵便封筒お届けによって、今はＥメールお届けやユニオン九州ＨＰによって、「未来」への感謝と共感を繰り返し抱き続けています。
Ｌｕｃｋｙ！

９月の定期大会メッセージでも書きましたが、４・２８免職者として毎月の投稿文を「未来」

に長年連載してもらい、このことがボクの争議生活の大きな支えになっていたと、改めて思います。
　４・２８闘争に関する話しだけではなく、日常感じ考えたこと等々、一言に大胆にまとめて言うなら、あの投稿文はボクからのラブレターだったとも言えます。そして何と多くの返信ラブレターを「未来」からもらったことでしょう。
　Ｈａｐｐｙ！

　今ボクは、“４・２８反処分の成果”を基盤に、“争議者の社会保障の権利（年金掛金等々）”問題で「郵政共済組合」相手の「国共済審査会」係争を行い、また、東京総行動（けんり総行動実事務局）参加なども続けています。以前とは異なり、健康回復に「傾注」もしています。仲間の皆さんからもらった多くのプレゼントを、無駄にしないようなんとか活かしていきたいと思っています。　旧全逓本部が全免職者の首を切った９１年、郵政全労協（～郵政ユニオン）の結成があったが故に、４・２８闘争は再生・発展・継続できたのですから。

　郵崎労結成からの２０周年、変節全逓～ＪＰ労組の非人道的冷たさの対極に位置した２０年・・・非正規連帯、反戦反核、国鉄闘争・全労協・地区労運動、反民営化公共労働対案等々。なにより、４・２８首切り撤回２８年間争議を、結成の前からも、そして０７年２月最高裁勝利・争議解決総仕上げ活動以降までも、ずっと暖かく支え続けてくれている仲間の皆さんに、心からの、ありがとうございます！
　２０年と３０００号、心からのボクまでもの嬉しさと、心からの祝辞です！

いつまでも仲間を大切にする人間でありたい

鉄建公団訴訟長崎原告団　深浦　義孝

　郵政ユニオン九州地方本部結成２０周年並びに機関紙「未来」発行３０００号記念おめでとうございます。
　１９８９年１１月の総評解散、連合結成の中で「連合には行かない」という結論を出し、翌年５月郵崎労を結成され、その後全国ユニオンとして今日まで「仲間と競争せず、弱い人と共に団結して闘おう」と闘ってこられた、郵政ユニオンの皆様に心から敬意を表します。
　全逓を離れる結論を出すまでの皆さんの思いを考える時、私も鉄建公団訴訟原告団に参加し、闘争団の仲間から罵倒され悔しい思いをしそれでも闘い続けてこられたのは、皆さんの闘いに学んできたからだと思っています。
　「処分は俺たちの勲章だ（不当処分撤回闘争１５年の記録）」も何度か読ませてもらいました。私も座り込みに行ったことを思い出しました。
　また、国鉄闘争が雇用問題を残し一定の解決が出来たのも、みなさまの物心両面からのご支援

があったものでこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

これからもみなさまの闘いに学び、いつまでも仲間を大切にする気持ちを持ち続ける人間でありたいと思っています。

メッセージ

篠崎正人（佐世保市在）

郵政労働者ユニオン九地本委員長
山本恭郎様

日ごろからのご活躍、大変ご苦労様です。

日本の労働運動が「連合」へと集約される中で「労働組合運動」へと変質している現状で、たとえば全国一般労組や全港湾労組は組織維持さえ不安を抱える状況へと追い込まれています。
本来、労働者の社会的地位の向上を目的としていた労働組合運動が、「春闘」に代表される賃金向上運動へと矮小化されていく中で、職場の主人公であるはずの労働者は賃金で評価される「勤労者」に制限されてきています。

そうした流れの中で、労働現場では賃金の代わりに合理化と生産性向上運動を受け入れ、労働災害や職業病の拡大を防ぐ手立てを失ってきています。
かつての労働災害や職業病は目に見える「災害」や「疾病」だったのですが、現在は目に見えない「うつ病」など、労働者が本来持っている豊な感性や労働への誇りを奪うものへと、いっそう深刻な抑圧へと代わってきています。

郵政ユニオン結成２０周年を機会にさらに働くものの連帯を強固なものとし、労働運動の鬱積した状況を超える運動を提起してほしいものと期待しています。

残念ながら、ご案内いただいた祝賀会は、その前後に沖縄県知事選挙に立候補する予定の伊波洋一さんの応援のため沖縄に出かけており、出席できません。

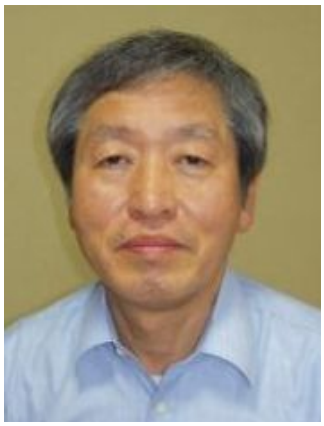
普天間基地の移設問題は、一方ではアジア太平洋地域の安全保障のあり方についてさまざまな問題を投げかけていますが、もう一方では「国」に対して「地方政府（自治体）」が、憲法の理念を生かして住民自治を貫けるか、あるいは「国家」に対して「地域共同体」がどこまで自主性を貫けるか否かをかけた重要な闘いとなっています。

それゆえに今回の沖縄知事選挙は働くものにとって、また地域で生活するものにとっても重大な意味を持つものです。ぜひ、連帯した取り組みを、この場を借りてお願いするところです。

皆様の今後のご活躍を祈念いたします。

『すごすぎて』良い言葉が見つからない！

鉄建公団訴訟長崎原告団　　野口賢治



『郵政ユニオン九州地本結成２０周年』『機関紙３０００号達成』本当におめでとうございます。私たちの常識では、あまりにもすごすぎて良い言葉が見つからない。そんな感じです。

郵政ユニオンの運動は、外部から見ても素晴らしいと思ったものでしたが、付き合ってみて改めてその素晴らしさを実感しました。

私自身、考えてみるとユニオン労組との付き合いは、国鉄闘争がなかったならばありえないことだったと思っています。四党合意方針に反対し、鉄建公団訴訟に参加したものの、頼みとしていたこれまでの地域の人たちからは「国労の運動に背を向けることなどできない」などと言われ、途方に暮れていた時でした。闘い続ける人たちがいる限りユニオン労組は支援し続けると表明してくれました。暗闇の中で一筋の光を見た思いでした。

それから今日まで支え続けてもらいました。おかげでどうにか頂上に近いところまで到達することができました。ユニオン労組の支え無くして長崎の鉄建公団訴訟の闘いはなかったと思っています。原告団として存在はしていても、運動としてはまずなかっただろうということです。本当に感謝しています。

私自身もこの闘いの中でいろいろなことを経験させてもらい、また、学びました。これまで国労という組織の中で運動してきた自分の運動がいかに狭い視野の中でのものだったのか痛感させられました。その一つが、ユニオン労組が発行している機関紙『未来』でした。いままでの私の常識からすれば、まず考えることさえあり得なかったと思います。口では大

きなことを言っても、こういうねばり強いことになると最初からからあり得ないことでした。この『未来』という機関紙活動があったからこそ、私たち長崎原告団の機関紙『ＪＵＳＴＩＣＥ』もこれまで発行し続けることができたのだと思っています。そういう意味でもお礼を言わなければなりません。本当にありがとうございました。

２０年前、総評から連合へと各労組が雪崩を打って流れていく中で、『総評労働運動の継承を』と全逓労組から立ち上がった郵政ユニオンですが、運動スタイルは、常に職場に目を向け、組合員の気持ちを大事にしてきた運動だったように見えました。その運動は民営化された郵政公社の中で敢然とストライキで闘う姿にきちんと継承されています。本当に頭が下がる思いです。機関紙『未来』でもほかの組合が真似しようとしても真似できないようなことをやり抜いています。週に２～３回定期的に発行、今度３０００号到達、機関紙活動に少しでも携わった人ならば、これがいかにすごいか、言葉に表現できなません。その組織があって、そこにやり続けるという中心人物がいて、その周りにそれを支え続ける人たちがいたからこそできたのだと思っています。

本当に素晴らしい組合です。『結成２０周年』、『未来３０００号到達』本当におめでとうございます。

郵政ユニオン長崎さまへ

長崎鉄建公団訴訟を支える会
山崎満喜子

組合結成 20 周年、そして「未来」発行 3000 号！おめでとうございます。

私は、大単産の労働組合に働く書記ですが、行き詰ったとき、この「未来」を読んで、見通しがはっきりしてきたことが数回ありました。

また、「ＪＲ不当解雇、国の不法行為」に対して一緒に怒り、私も鉄建公団訴訟を支援できて和解の道が開けたのも、ともにたたかう郵政ユニオンの仲間がいたからこそと思っています。

まだ全面解決していませんが、不当労働行為に対しては、これからも毅然とたたかいたいと思っています。

大きいものに流れるのは簡単です。しかし、見えなくなるものも多々ある。
このままではいけない、低賃金労働者、非正規雇用の弱い立場の労働者のことを考え、どれだけ力になれるのかと私は今、壁にぶちあたっています。

「真剣に考え、信念を持って、小さくまとまる」ことを選択し、そして 20 年間もたたかった。機関紙 3000 号も発刊した。

これからの「未来」も楽しみになりました。

祝賀会メッセージ

鳥取県　森谷和司

組合機関誌３０００号到達おめでとうございます。皆様の不断の努力と、不屈の労働者魂に心より敬意を表します。以前、私が当局から処分を受けたとき、それに抗議するビラを配っていただいたことを思い出しました。また私も九州ピースを通じて、「何事も続けてみるものだ」と痛感しています。

私が感銘を受けた言葉に、

１０年　偉大なり、２０年　恐るべし、３０年にして歴史なる

というのがあります。

皆様のこれまでの闘いは、仲間を励まし、勇気を与えただけでなく、敵にとっては憤慨であり、恐怖でしょう。そして、打ち立てられた不滅の歴史のその先に、来るべき「未来」が訪れるのだと思います。

「継続は、数に勝る力なり」。ともに頑張りましょう。来年もまた走ります。

ユニオン 20 周年

そして「未来」の 3000 号達成おめでとうございます！

鉄建公団訴訟長崎原告団を支える会会員　　松崎　涼子

素晴らしい記録を打ち立てられたと思います。

組合機関誌として、いい時も悪い時も、変わらずに作り、配るというのは、 そうそうできることではないと思います。

また、この激動の時期に、皆さまがずっと闘い続けてこられたことに心から敬意を表します。

今後も、ユニオンのみならず、全ての労働者のため、奮闘お願いいたします！！

祝

未来 3000 号おめでとうございます。

秋田市、負けざる者　今村久孝（元郵政労働者）

未来に向かって、1 万号、2 万号に向かって、自由、平等、平和な新社会の建設・前進を勝ち取りましょう。

久 孝 村 今

負けても　負けても、負けざるものは、考をもって久しく先駆者として、反逆は正しい。職場にかえる。職場にカエル。自然にかえる。社会をカエル。ゆえに、展望をもってなるようになる、今を生きる。闘いは村から。闘いは今から。

負けても　負けても、負けざる者たちは、先導者としてともと労にまなび、労をまなぶ。

自由、平等、平和の新社会の種を未来に向かって蒔きながら、歩いていこう。

ゆえに理想をもって、なるようになる。今を生きる。闘いは村から、闘いは今から。

郵政労働者ユニオン九州地方本部

郵政ユニオン長崎支部　殿

祝

秋冨不二男（千葉在）

郵崎労結成から 20 周年、

機関紙･未来発行 3000 号本当に心よりお祝い申し上げます。

貴組合のますますの発展をご祈念いたします。

郵政労働者ユニオン九州地方本部

執行委員長　山本　恭郎　様

２０１０年１０月３０日
郵政倉敷労働組合
執行委員長　川上幸治

メッセージ

郵政労働者ユニオン九州地方本部（旧郵崎労）の結成２０年および機関誌「未来」の３０００号達成を心からお慶び申し上げます。

少数組合という厳しい状況にありながら、労働組合のあるべき姿を追求され、連合労組が労資協調に走り職場からの労働運動が大きく後退していくなかで、弱者の立場に立った活動であったからこそ２０年の歴史が築かれたのだと思います。また、機関誌は、その組合の顔であり、組合員の羅針盤とも言われます。機関誌は、会社の不正を正し、職場の改善を図るにも大きな役割を果します。２０年の間に３０００号の機関誌を発行する労力は、並大抵のものではありませんし、それを配布するのも相当な労力を要したと思います。多くの組合員が係わり支えあってこその偉業といえます。

今後も、郵政労働運動の牽引車として、職場からの活動を強められ、ますます活躍されることを心より祈念し、お祝いのメッセージとさせていただきます。

＜感想＞

（元全九電労組）全九電同友会
川瀬　正博

１９９６年の新社会党長崎県本部の結成大会および井原東洋一長崎市議会議員の選挙闘争を通じて、郵政ユニオン組合員との連帯・交流が始まったことを、いま感慨深く想いだしています。その後の、国鉄闘争・鉄建公団訴訟長崎原告団支える会の活動にも一緒に参加する機会を与えてもらい、大変感謝しています。

九電退職後に電子メールで送られてくる郵政ユニオンの「未来」に目を通すのが一番の楽しみであり、格差労働社会を鋭く、しかも理論的に批判する労組機関紙として群を抜く内容に驚いています。政治・社会・歴史的な論評は組合機関紙の域をはるかに超えています。私も全九電最後の１０年間、週１回の手書きの支部機関紙を５２５号発行し、職場の同盟系組合員に対会社交渉・職場の闘いを教宣してきましたが、「未来」は雲の上の存在です。郵政当局と最大ＪＰ労組も「未来」によって緊張感を与えられていると思います。けっして敵視・批判することなく、むしろ感謝すべきです。

今私は、唯一長崎で残してきた元全九電組合員有志の「全九電同友会」で活動していますが、労働運動や政治運動が後退する中で、少数精鋭で新自由主義・格差社会に対抗している貴労組の存在は心強い限りです。今後の脱原発、護憲・平和運動の目標にしたいと思います。

最後に、「上から」つくられた「企業内労働組合活動」ではなく、職場末端の組合員一人一人が組織し、競争・差別攻撃にひるむことなく「２０年間の階級的な労働運動・社会運動と３０００号の機関紙達成」は並大抵の努力ではできなかった偉業です。ここにノーベル平和賞よりも偉大な「マルクス労働組合賞」を捧げつつ、組合員の拡大と日本の階級的労働運動の再生のために努力されることを熱望します。

みなさまからの一言メッセージ

記念会開催の案内状の返信に付記された言葉です。（ありがとうございました）

①、結成２０周年おめでとうございます。未来３０００号とこれからも４０００号を目指して頑張ってください。（**岡島　強**　　元郵便分会）

②、これから先も組織拡大、発展を！　（**永津啓二**、元１集分会）

③、郵政ユニオン（郵崎労）結成２０周年、未来３０００号発行到達、おめでとうございます。
郵政ユニオンのますますのご発展をお祈り申し上げます。（**吉田和男**、元３集分会）

④、お疲れ様です。（**原田英昭**、元３集分会）

⑤、途なき途が道となり、険しき途を切り拓くのみ。（**島田次男**　市内分会、龍町郵便局）

⑥、１０月に入り、まだまだ暑い日が続きます。皆様、いかがお過ごしですか。ユニオン九州地方本部結成２０周年、「未来」発行３０００号記念、また、国鉄闘争の勝利！　おめでとうございます。
私も町内の役について、毎日忙しく過ごしています。皆様のご多幸とご健勝と、ますますの「未来」の発展を祈っています。（**田中福徳**、元３集分会）

⑦、２０周年おめでとうございます。久しぶりの長崎、楽しみにしています。よろしくお願いいたします。（**千手はつみ**　元福岡支部、）

⑧、未来発行 3000 号、おめでとうございます。初めがなければ終わりがない。これまで続けることが出来たのは、みんなの結束があったからだと思います。これからも、働く人のために頑張ってください。用件が終われば会に出席できるかも…。（**城戸洋**　元２集分会）

記録集　20周年の思い

祝！　未来３０００号

大石　眞三髙（ゆうちょ支部）

「未来」には郵政で働く中でいろんな場面で励まされ、そして多くの勇気をもらいました。
「未来」の存在があってこその、わたしの職場での立ち位置ではなかったかと思います。心から感謝します。
　初めて「未来」に原稿を書き、そして組織選択の心境を語った時のこともよく覚えています。そしてその時の想いを忘れずに（燃えるほどの熱は無かったとしても）ここまで来れたことも嬉しく思います。これも「未来」の縛り？のたまものか。これにも感謝。

郵政長崎労働組合結成２０周年、

機関紙「未来」３０００号達成おめでとうございます。

小島滋（西彼杵支部）

　１９９０年５月２７日、万才町住友生命ビルで、私は少数の仲間とともに、労使協調路線を選択した連合全逓と決別して、郵政長崎労働組合を立ち上げた。社会党、総評に組織化された国労を中心とした労働組合は、資本による支配体制に組みすることなく、労働組合本来の闘いを展開

し闘っていたが、当時、中曽根首相ら国と資本が一体となり、戦後政治の総決算のための翼賛体制作りをめざし、国鉄改革と称して弾圧攻撃をかけていた。

１９８９年、これまで総評に所属していた全国の労働組合が、国と資本の後ろ盾によって労使協調路線を敷いた連合に雪崩を打つ状態で加盟し、吸収されていった。

郵政内部でも全逓、全郵政とも連合へ加盟し、労働界再編へと移る。われわれが所属していた全逓長崎地区や各支部も連合に加盟した。私たちはこれでは労働組合としての存在がないとして、反連合の立場を支部決定とし、連合会費支払い拒否や、連合主催の集会参加拒否などを行ってきた。

しかし、全逓の上部機関は長崎中央支部のこうした動きに対して、現場支部へ労働組合機能停止状態となる力をかけてきた。私たちは、企業防衛、労使協調路線では労働者のみならず、国の基本的方向性も見失うとして「連合」の翼賛体制組織に反対の立場で、新労組結成へと立ち上がった。

私は郵政長崎労組の反連合の新労組結成時、全く不安がなかったと言えば強がりに聞こえるが、労働組合としての存在に失望した全逓と決別することに、ほとんどといっていいほど抵抗がなかった。そして、郵政長崎労組（郵崎労―郵九労―ユニオン九地本）の存在によって、これまで多くの労働者を守り勇気づけたことは間違いないと自負している。

労働組合運動の一環として、組合の顔として存在する機関紙「未来」も3000号を達成した。週三日の原稿担当者や門前ビラ配布を雨、雪、などの悪天候にもかかわらず早朝から欠号なく配布することは並大抵の努力と根気なしでは成し得ない。これを２０年間、実践し成し遂げたことに対し改めて組合員に敬意を表するとともに感謝したい。

組合員の声を代弁した機関紙は、安心と一体感を創り出す。これからも知識と連帯を維持発展するために必要不可欠な存在だ。

郵政ユニオン九州地本（前身　郵崎労）の２０年間は労働組合として組合員に、労働者としての生きる権利を与え、貢献してきたことに確信と自信が持てる。これから先も労働者のための労働組合として存在することは言うまでもないことだ。

世界経済では新自由主義政策によって、弱肉強食の世界が展開している。日本の資本も競争力強化を謳い労働者への搾取を強化し、追随して労働組合が本来の姿を変え右傾化が進んでいる。

私たち郵政ユニオン九州地本は労働組合としての本質を守り、一人の労働者を守るため弱い人と共に歩む労働組合として邁進していくことが求められる。

今回の偉業はまだ一通過点であり、今後も全国の郵政ユニオンの一員として九州にユニオン九州地本ありといわれるような存在を構築していくことを目標として、私も組合員として共に頑張っていきたい。

郵政ユニオン九地本のさらなる発展を祈念して、組合結成２０周年、「未来」3000号達成を喜びたい。

九地本の皆様

郵政ユニオン那覇支部
比嘉　宏

未来１１４０号（９８年４月１５日付）の見出し、「郵九労に新しい仲間が加入　沖縄に郵政全労協の旗がたつ」で紹介していただいた比嘉です（当時、那覇東郵便局）。現在は郵便事業㈱那覇東支店と名称は変わりましたが、８２年の採用以来同じ職場です。９７年に全逓を脱退し、９８年の４月に郵九労に加入して後、強制配転の噂もありました。配転されなかった理由は分かりません。沖縄はヤマトの皆さんと違って事なかれ主義の度合いが高いのでそういう展開を労使共に好まなかったのかもしれない。全逓をやめて一年間ほどは組合役員から具体的嫌がらせも受けましたが、その後、ほとぼりも冷（さ）めー。

郵政ユニオン九州地本結成２０周年は偉大なことです。労働者の幸福を追求するのが郵政ユニオンの綱領の基本であると私は確信しています。幸福に生きるためには当局との闘いも厭いません。闘いに勝つには学習と豊かな感性が必要です。

２００７年の郵政民営化以降、某大労組（２３万の組合員！）の姿勢は鮮明です。
経営陣の施策には逆らわない、現場が納得できない施策（不合理でばかげた施策）についても当局と議論しようとしない。私の職場では支部役員が課長代理をしていて、配達業務をほとんど行わず、デスクワークをこなしています。当局との人間関係は良好で、管理職は支部役員に敬意を表している（ように見える）。しかし、私の周囲の労働者は大きなストレスを抱えている（既に２名が職場を去った）。彼らはこの大労組に不満はあるが、脱退する気はないのです。

「事業の収入が激減すれば、営業で収入を確保するしかない。頑張ってください（九州・沖縄ふるさと会頒布会の味紀行、夏味づくし、お中元、スィーツ、クリスマスケーキ、お歳暮等々、カタログ販売の商品が次々繰り出されてくる）」と管理職の皆さんは檄をとばす。「ヤマトさんからのメイル便の奪還を！」と檄をとばす。営業の個人目標を達成しないと支店長から個人的指導を受けるはずという訳で、集配営業課は各商品の売上目標を続々と達成する。あのかもめ～る（暑中見舞い用の葉書）も売上目標達成。私は一枚も売れなかった。

郵便事業㈱は国民の生活基盤の確保に貢献すべきであり、儲け至上主義では地方を切り捨てるしかない。沖縄県なら那覇市は稼ぎやすい。東村（女子ゴルフ宮里藍の出身地。私の妻もここで生まれ育ったそうです）は人口が少ないから集配機能を名護市に統合されてしまった。過疎の町でも観光客が訪れ、特産品で稼ぎ、出稼ぎに出なくていい地域、その基盤造りに郵便事業㈱が貢献するという発想が欠けている。いわゆる株式会社が儲からないことはやらないというのなら、その領域にこそ私たちのやるべきことがあるのだ！と思うのです。私はビジネスモデルを国民に提起すべく学習していきます。

九州地本の皆さまこれからもよろしくお願いします。

2010 年 10 月 10 日記

結成２０周年感想文

教宣部　松田運生

組合結成２０周年おめでとうございます。

組織外の人が言うような言葉だが、心から永年頑張ってきた仲間と自分に贈る言葉です。

ユニオン九地本の前身である郵政長崎労働組合結成から２０年にもなる。住友生命地下ホールの結成大会が昨日のことのように思い出される。もうすでに退職した先輩たちの顔と顔。志半ばで逝った先輩の顔が。

結成大会のビデオを見ると今よりは髪の毛が多く黒々としていた自分が、この２０年間どのように生き、何を成したか？自問の節目を迎えている。結成の趣旨である労使協調の連合に与しない、労働者の権利と人としての尊厳を守り通し得たか、権利を闘い取る等々を実践させ得たか。力及ばないところは多々あったが、精一杯頑張ってきたと自負できる。しかし、たまには逃げ出したくなることもなかったかというとそれも否定できず、葛藤の中で挫けそうになることもあった。そういう意味ではこの２０年間は私の青春だった。大人になれよ！という声が聞こえたこともあったが、あとに続く組合の若い仲間のためにも大人になることを頑なに拒否し、青春を謳歌してきた。

私が、組合運動に入ったのは反戦平和運動がきっかけだった。高校３年の頃ベトナム反戦運動が日本でも大きく高揚し、私もその中でもがき、多少の知識を得ることができた。米軍がベトナムの民衆を虐殺したように、第２次大戦中に皇軍が中国や韓国、アジアの人々を虐殺、蹂躙したことを知る。そして戦争に突入するためには戦争反対を言う国民がいなくなって初めてできること。そのためには国民市民の人権などあってはならないと。

職場で人権を言えなくて、守れなくて、闘えなくて、どうして国に対して反戦平和の闘いを挑めるかというのか。これが私の組合運動、労働運動の出発点であった。

わが組合は結成から２０年を迎えた節目の時に、私はあと５ヶ月で職場を去っていく、大人になりきれないまま、そして未だに青春は終わらないかも知れません。職場を去り、スタンスは変わっても人権を守る事と反戦平和の意思は変わらないだろう。仲間の皆さん「頑張って下さい」ではなく「共に闘いましょう」。

２０周年にあたって

郵政ユニオン長崎中央支部支部長
松江　國晴

組合結成２０周年、「未来」３０００号達成大変喜ばしいことだと思います。

１９９０年５月２７日、住友生命ビルの会議室で、郵政長崎労働組合を立ち上げたことは今でも忘れない。参加したみんなの顔は、不安と期待が入り混じった複雑な表情をしていたように思

えました。正直言って不安の方が大きかったようでした。きっと私も同じ表情だったと思います。しかし、これが正解だ。自分の信じた道を行こうと決断した瞬間でした。当時、全逓に残った左派の活動家だと思っていた人が、「連合を中から変えていく」と言っていたが、２０年がたってもなんら連合は変わらない。むしろ労働組合とはかけ離れた言動がある。

労働組合は常に闘う姿勢を持っていないといけない。先人たちが、汗と血と涙を流して闘って得た権利や労働条件は、少しでも隙を見せると後退してしまう。労働者は、闘わないと権利や労働条件は守れないことを実証したのは郵政長崎労働組合であり今の郵政ユニオンだ。私は、本当にあのときに決断してよかったと思います。あの日以来私は少しだけ成長したと感謝しています。

多くの若い人たちが郵政ユニオンに結集しています。闘わないと労働者の権利は守れないことを一人ひとりが自覚してこれからも郵政ユニオンを発展させてもらいたいと実感しています。

ユニオン九州地本結成２０周年おめでとうございます。

ユニオン九州地本書記長・向井宏

私がユニオンの前身である郵政長崎労働組合(郵崎労)に加入したのは９０年の８月です。
そのとき私は 21 才で全逓長崎中央支部の青年部常任委員でした。当時は職場での組合運動よりも平和運動に積極的に参加していました。特に、大阪でスタートし８８年より長崎でも走り始めたピースサイクル（ＰＣ）運動にやりがいを感じていました。広島や大阪の仲間たちと山陽路や九州路・沖縄を、平和の大切さと争いの愚かさ、平和を追求していく大切さを訴えながら走りました。自分の力でペダルを漕いで各地を回り、交流を重ねる事で共感する仲間の輪が大きくなる、金銭的にも時間的にもしんどい時もありましたが自分の原点とも言える運動でした。

そのＰＣ運動を進めた中島さんや広島の谷本さんらに、全逓中央本部より反組織的運動として制裁が行われました。これに抗して、全逓に見切りをつけた各地の先輩たちが独立組合を結成した一連の流れの中で、私が全逓を脱退し郵崎労に加入したのは必然だったと思っています。

郵崎労に加入した当時、職場は本務者といわれる正社員が大多数で臨時補充員・非正規職員は集配各課に 2～3 名ほどしかいませんでした。そのため組合運動も正社員のための運動が中心でした。まだ会社の労働管理もそれほど厳しくなく、今から考えれば最後のよき時代だったと思います。変化が目に見え始めたのは 2000 年くらいからでしょうか？合理化の一環で総人件費を抑えるためとして、機械化と正社員退職後の不補充＝非正規社員化が進められました。さらに 03 年から始まった 2 ネット施策で一気に非正規の割合が増加しました。その頃から組合運動の中心課題が非正規社員の処遇改善になってきたのも必然でしょうか。郵政非正規センター「ゆい」の

前身ともいえる「ゆうメイト全国交流会」が初回の交流会を行ったのが03年、郵政ユニオンとして春闘の中心課題としたのが05年、九州地本にゆうメイトが組合員として初めて加入したのが 05 年、同じく私が九州地本の書記長になったのが04年です。以来7～8年間、書記長として非正規社員対策と組織化､処遇改善に向けての交渉を担当してきました。

非正規社員の処遇改善がユニオンの組合運動の中心となるにつれ、結成当時の郵崎労を支えた先輩方と軋轢が起こるようになりました。年齢から来る身体の衰えと日進月歩といえば聞こえはよいが、次々に導入されるＩＴ化とそれに伴う合理化について行けないという声をよく聞きます。41 才の私でも山手の通常郵便配達区を連続して担当すれば足が利かなくなり、翌日は他の担務を希望したくなります。50 才を過ぎた先輩方の苦悩を想像することは難しい事ではありません。こんな時こそ若い社員が年配者を助けるべきだと思います。しかし職場の若い社員はほとんど非正規社員です。彼らは正社員の三分の一程度の給与で働かされ雇用の継続の保障もありません。毎日、雇い止めやスキル認定のダウンによる給与削減に繋がる上司の目におびえ仕事をしています。彼らも先輩方の力を必要としています。お互いに助けを必要とし、また助け合うことが出来るにもかかわらず会社の労働者分断攻撃の施策のため、お互いを思いやることが出来なくなっています。この攻撃に対抗するには、正社員と非正規社員の相互理解を深く進めることでしか解決できないのではないでしょうか。理解が進みお互いの立場を解りあえれば助け合いは十分可能です。今まず進めるのは非正規社員の処遇改善だと思います。弱い立場に置かれている彼らの生活を改善しなければ助け合いは生まれないでしょう。

折しも郵政では非正規社員の正社員化がわれわれの闘いの成果として行われています。10 年の登用試験は多くの問題に満ちたもので決して満足できるものではありません。しかしこの試験ではユニオンの非正規組合員から正社員が生まれる可能性があります。満足できるものではありませんが、この正社員化をきっかけに組織化と組織強化を進めることが、今後の正社員登用試験を本当に非正規社員のための試験とすることに繋がると思います。

むくげ

これから 11 春闘に向け、非正規社員正社員化と処遇改善に向けての取り組みが多数行われます。この闘いに組合の英知を結集し、希望する社員すべての正社員化を実現することが求められています。この結成 20 周年を大きな契機として組合の再構築を行い、職場での責任組合へと飛躍しなければなりません。私たち執行部が率先することとなりますが、運動を進められるかどうかは組合員一人ひとりの協力にかかっています。20 年間ありがとうございました。次の 20 年もよろしくお願いいたします。

組合結成 20 周年、未来 3000 号記念へ

山田武明（ユニオン執行委員）

あまり文章を書くのは得意じゃないので、何を書いていいのかわかりませんが、私がユニオン

（郵崎労）入った経緯などを紹介しながら、現在の心境をまとめてみたいと思います。

私が郵政の職場に入ったのは、郵崎労結成の翌年 91 年 4 月です。長崎中央郵便局（民営化前の長崎支店）第一集配課（現在の三集）でした。当時は第四集配課まであって、後に三集と四集が統合して第一集配課となり、第一集配課が現在の第三集配課になりました。組合の方は全郵政に加入していました。採用前に郵便課で非正規として働いていて、合格を知った全郵政の役員の人に勧誘され、その時は何も知らないので、考えなしに加入しました。

職場に入った当時は、全郵政の人から「郵崎労の人とは付き合うな」とか「休憩室には入るな」と言われていましたが、何故か全郵政の人とはなじめず、郵崎労の人との付き合いが多かった気がします。そんな時に山田重則さんと退職された三浦和男さんと一緒に飲みに行き組合に入るように言われました。酒の勢いもあり「入ります」と即答しました。その後、全郵政脱退を知った役員の人が自宅に来て、考え直すように説得されましたが、これからの付き合いも考えた時に、郵崎労の方が自分に合っていると思い説得には応じませんでした。組合に加入してからは、ピースサイクルや集会、レクなど、動員をかけられた時は出来るだけ参加しました。

２００４年からは執行委員になり、３年間組織部を担当し、２００７年１０月からは地本の会計担当となり現在に至っています。ここ数年は、非正規組合員が増加したせいでしょうか、組合内外問わず、いろいろ相談されることも増えています。すべて解決できてはいませんが、自分なりに対応しています。職場で先輩たちに相談していた私が相談をうけるまでに成長したのもこの組合に入ったからこそだと思っています。これまでの２０年は組合を盾に大きな悩み、トラブルとは無縁でしたが、これから先は、組合結成に携わってきた方々が続々退職されます。正直、不安もありますが、人を信じ、自分を信じ、後悔のないように進んでいきます。

「郵政ユニオンに参加して良かった！」

坂井貴司（福岡県）

郵政ユニオン福岡支部の一員となってから３年になります。結構いろいろなことがありました。頭の中の知識でしか無かったストライキをやったこと、新しく多くの仲間と知り合えたこと、「伝送便」の編集委員になったこと、毎週一回朝ビラをまくようになったことなど、多くのことが思い出されます。

私は一年間郵便外務の非常勤職員をしたあと、運良く郵政外務職員採用試験に合格し、1997 年４月１日付けで柳川郵便局郵便課に配属されました。現在に至るまで郵便外務一筋でやってきました。

労働組合は旧全逓に入りました。理念に賛同したのではなく、私の面倒を見てくれた先輩職員が全逓の役員だったからです。この人と一緒にやりたいと思ったからです。その方は組合活動に大変熱心な方で、多くのことを学び

ました。労働組合の活動はこうあるべし、と教えてくださいました。その人から教えられたことで、郵政ユニオンに入ったと言っても過言ではありません。私は今もその人を理想としています。

柳川局から久留米局へ、そして今の粕屋南局に移ったのは郵政民営化を１年後に控えた2006年４月でした。粕屋南は大変だと聞いていましたが、行ってみて驚きました。過重な労働、人手不足、多発する事故、ＪＰＳ・・・。これに対して、全逓改めＪＰＵの支部は何もしていませんでした。柳川や久留米では活発にしていたオルグも何もありませんでした。私は失望しました。そこで思い出したのが、インターネットで知った「郵政全労協」でした。そこに書いてあったことは私が日々直面する問題であり、それに対する問題意識でした。その組合の理念は私が共感するものばかりでした。私は再びそのホームページを見ました。名前は「郵政ユニオン」になっていました。ここ入ろうかと真剣に考え始めました。

それを実行させたのが、非常に威圧的な集配営業課の課長の一言がきっかけでした。

「組合は君を守ってくれんよ」

その通りでした。当時、私が入っていたＪＰＵ（現在はＪＰ労組）は私を守ってくれなかったのです。粕屋南局に異動した直後のことでした。配達のスピードが遅く、定時で終わる見通しが立たず、周囲から白い目で見られていました。課長など上司から「遅すぎる！」と毎日怒鳴られていました。それでどうにかならないだろうかと、ＪＰＵのある役員に相談したところ、

「それはあなたが努力することだから」

と、相手にしてもらえませんでした。もうだめだ、郵便局を辞めようか、とまで思いました。　やがて仕事を覚え、配達のスピードが速くなると、管理者はそれほど言わなくなりました。しかし、ＪＰＵに対する不信感は募り、全郵政との組織統合が本格化するとますますそれは強くなりました。職場でたくさん問題があるのに、労使協調を優先し、改善に取り組むのをやめたＪＰＵに愛想を尽かしました。ＪＰＵが他の労組との共闘組織である地区労を脱退した知らせを聞いて、その思いは決定的になりました。

福岡市で上映されたある映画の監督を囲む懇親会に参加した時です。私が座った席のとなりの方と話が弾みました。私が郵便局職員だと言うと、その方は「私の知り合いが郵政ユニオンの組合員です。今度開催される在日アメリカ軍岩国基地拡張反対集会に参加するそうです。紹介しましょう。」その集会に行く車の中で一緒になったのが、福岡支部の見口支部長でした。

そして、郵政事業民営化が実施されたと同じ日付の2007年10月、私はＪＰＵを脱退し、郵政ユニオンに入りました。もう迷うことはありませんでした。

それから３年が経ちました。集会、会議、朝ビラ、労働相談などで、以前とは比べものにならないほど組合活動が忙しくなりました。それでも全逓やＪＰＵにいたころは感じなかったやりがいを感じています。ユニオンに入って良かったと思います。

私は郵政ユニオンをもっと盛り上げていきたいと思います。

最後に。２年前、粕屋南支店で時限ストライキをしたあとのことです。当時のＪＰ労組の山口委員長が郵政ユニオンのストを「会社を危うくする反社会的行為」と発言したのを聞いて、思いました。

「ああ、ＪＰ労組をやめてよかった。このような幹部を養う必要は無くなったから！」

組合結成２０年に思う

井川登喜男（退職者）

郵政長崎労働組合（郵崎労）結成２０年、機関誌「未来」３０００号達成､おめでとうございます｡郵政九州労働組合(郵九労)、郵政労働者ユニオン九州と発展的に組合名を変えながら、厳しい状況の中で闘いを続けてこられた組合員の皆様に心から敬意を表し、お祝い申しあげます。今、色々な事情があったにせよ郵崎労結成時に「後から加入するだろう」とみんなから置いて行かれそうになり、慌てて結成大会に間に合った最後の一人となったことを思い出しています。機関誌「未来」のネーミングについては最初、組合名をどうするかの話し合いの中で、堅苦しい労働組合のイメージを脱して一般に親しまれるような、これから新しい組合運動を目指して踏み出していく等の思いを込めて「未来」にしてはどうかと提起したのですが、組合ということが判りにくいとのことで機関誌名になったように記憶しています。それから２０年。時の流れの早さを実感しています。

郵崎労と郵九労で１０年を過ごし、２０００年に定年退職し１０年を退職者として組合にかかわってきました。現役として過ごした１０年は、私にとって単純に言えば（今は）消滅した「全逓」の元活動家としての実績や知名度を武器に、いわばその延長線上で活動できた時代でした。退職した翌年、２００１年に郵政省が「郵政事業庁」に変わり、そして「公社」､「民営化」という国民の財産を一部の大資本に売り渡すという組織改悪が強行されました。職場では一気に状況が変わり、「公務員」から「社員」へと身分が変更されただけでなく、雇用が短期間で終了し、より劣悪な労働条件で働かざるを得ない「非正規社員」に頼る正社員との分断人事・労務対策が強化され、また、賃金制度が営業実績や上司による基準があいまいな査定によって上下するものとなり、それまでの慣行や権利が「制度の変更」ということで合法的に剥奪され、正規、非正規を問わず労働強化が進み、従来の闘い方では対応が難しい時代に入りました。そのような厳しい職場環境の中で闘いつづけ、勢力を維持し、一定の成果を挙げながら今日を迎えられたことは素晴らしい団結の力だと思います。

今後も、同じ郵政労働者である非正規社員の皆さんとともに団結を拡大・強化し、市民運動とも連携し、未来を切り開いていかれますよう祈念しています。

記念集に寄せて、現況と時代認識です。

元、郵政ユニオン市内分会（龍町局）
島田次男（７３歳）

はじめに。

２００８年以降、いよいよサバイバルの時代（土岐）に私たちが生きていることが明確になってきました。自己責任と努力したものだけが生き残れる時代です。（もちろん、努力しても生きら

れない人々がたくさんいます)。「死」も生の一部だと私は考えています。

１、現在実戦・実行中。
＊交通指導員。声かけ、あいさつ運動。０４年７月から毎週月曜日から金曜日、約５０分。
＊速歩、軽いジョギング、４日に一回。真向法のまねごと。ＨＰＳ。
＊囲碁５段、７６歳に６段を目標。週３回。
＊お金を増やすこと。
＊枕元にバットを用意。
＊５０坪の畑を耕作。

２、近き将来。
＊食量危機に備えて組織作り。
＊地元自治会に「囲碁愛好会」を作る。

３、現代（現在）をいかに認識するか。
＊世界の覇権国家の移動期。
＊西洋から東洋へ。世界は大動乱期に突入。紛争の激発、そして戦争へ。２１世紀はその移行期。次の覇権国は、中国？　インド？　日本？
＊世界金融危機、倒産、失業、治安の極度の悪化。日本は敗戦後の混乱期に回帰。国家破産（２０１５年ころ）がだれの目にも明らかに。ハイパーインフレ、医療保険制度、公的年金制度崩壊。日本復活、夜明けはいつか。

４、おわりに。
子どもと障害者、地域と共に生きる。

参考文献。
＊「文明と経済の衝突」。第２海援隊。
＊文明の８００年周期説。｛１６００年周期説｝は、故、村山節（みさお）提唱。
＊浅井隆氏著作多数。

編集部から
シルバー。ユニオン機関誌（０９年１月号）に掲載されたものに加筆されたものです。

本当に感謝、感謝

千手　はつみ（元福岡支部、芦屋郵便局）

１９歳の入局から３０年間、無集配局を転々としてきました。局長の人柄で決まる職場の雰囲気（労働条件）はピンからキリまで、時には郵政に直訴したこともあります。転機は 49 歳の時でした。初めて集配局への転勤を命じられたのです。当時、個人として窓口の能力を発揮できる無集配から集配局への転勤は降格に等しい人事でした。しかし、ここに新しい出会いがありました。そして、ピースサイクルを知ることになりました。２００２年無謀にも北九州から宮崎まで自転車で参加することになりました。頑張っても、頑張っても追いつけない私と一緒に走ってくれた人、本当にごめんなさい。本当に感謝、感謝でした。これが私の組合！職場を退いた今、仕事をしていた頃の全てが懐かしく思い出されます。ユニオンのみんな！苦しくたって頑張ってね！

雨にも負けず、風にも負けず

シルバーユニオン　　加茂　俊治（元福岡支部）

雨にも負けず、風にも負けず･･･たゆまなく闘われてきた組合の皆さん。お疲れ様です。1992 年にピースサイクルが、門司から長崎に向かう道程で、芦屋町を訪問したことが、私の人生の大きな転機になりました。事前の福岡で開かれた実行委員会で、初めて長崎の組合の**君と会ったのが始まりです。ピースサイクルを通して一緒に歩き始めたわけですが、田舎町の特定局に居る身からすれば、胡散臭さと不安は付きまといます。それでもピースサイクルこそが学習の場であったと感じられます。1997 年に機関紙「未来」1000 号の集いに参加したのも大きな転機でした。当時「親方日の丸」の特定局は、「組合的な団結」の解体が始まっていました。郵便外務員の強制配転です。全逓は現場の声を無視して、一切の対応をしません。外務員の半数の脱退届けに慌てて分会オルグに入るという状況で、結局は、うやむやに処理されてしまいました。1000 号の集いは楽しかった。自分たちの過去と現在と未来について、胸を開いて語ることの出来る仲間がここに居る。不安はあったけれど、いつか長崎のみなさんの自信と笑顔が、自分のものになるだろうという期待に、組合に加入しました。それでも、古き良き時代の先輩たちが去った現場は「総合担務」で様変わりしていきました。「胸証、ネクタイ、唱和、営業」と、ことごとく抵抗してきた「一匹組合員」の居場所はありません。どこかで発想を変えないといけません。「あまねく公平に、公共の福祉の増進」もうなくなってしまった言葉ですが、郵政で働く自分のエネルギーでした。試行錯誤の時代、長崎の皆さんに支えられてやってきた日々を懐かしく思い起こしています。

担がれて　　気づけば一人　　向こう岸

2010 年 10 月 30 日
郵政労働者ユニオン（郵崎労）中島 義雄

先日、NHK ラジオの「ぼやき川柳」で、この句が紹介されていました。人生にはよくあることなのだと感じました。私は決して担がれたとは思ってはいませんが、気づけば一人（郵崎労）状態は同じでした。これは皮肉ではなく、素直な 20 周年の感想です。少々、暗いか！ですが、人の言うことをすぐ信じてしまう軽い性格は今も変わりません。

70～80 年代。誰が最も闘っているか？　まさに社会も職場も戦場でした。当時「処分は俺たちの勲章だ」と、今思えば、気持ちと言葉ばかりが先走っている感じでした。そのころ、この総評路線に対抗し、協調の労働運動が台頭します。歴史的には学んだはずの右翼労戦統一でした。左派はこぞってこれに反対します。ある人は「自分が座っている座布団をひっくり返すためには立ち上がらなければならない」と決起を促します。おりからの国鉄改革と 1047 名の解雇でも「これは国労だけへの攻撃ではなく、全国の労働者は反撃すべきだ」と檄も飛びました。

総評の指導部だった岩井章元事務局長（社会主義協会代表）らは、総評路線の継承・発展を掲げ、全労協結成を全国に呼びかけます。これは私の心を揺り動かしました。そして、90 年 5 月 27 日、全逓を離れ、郵崎労を立ち上げます。しかし、自分では正しいと思った決断の郵崎労もその後は孤軍奮闘。石はどこからも容赦なく飛んできました。だが、この 20 年間を支えてくれたのは、仲間の揺るがない心と団結、暖かい言葉でした。

今は、左派とか社会主義とかの言葉は化石です。向こう岸にいる人たちからは「時代が変わったのだ」とかわされます。まさに時代を知らず、大人に変わりきれない私がいます。自分ながら「先を読め」と思いますが、この考えだけは譲れないのです。理由は明白です。私たちのこの選択=全労協（郵崎労）で、人生を決めた人が周りに確実にいるからです。言葉は心との約束。無論、誰でもなく、20 年前の私自身を裏切らない。これが人の道、一心無二です。

これに揺れはありません。労働運動で日本を変えると決断し、この世界に入った青雲の志は、今もなお正しいと信じています。しかし、現実の社会と職場で苦しんでいる若者たちに、明るく、働きやすい職場を受け継げなかったことは無念です。「夢」を実現できないまま、現場の闘いはバトンを渡しますが、生涯活動家として共に闘うことで、非力であったことの許しを乞います。そして社会と職場を変えるためには、闘いしかない。これは不変で、誰かが担うしかないのです。若者たちにも、これを信じて、ユニオンとともに歩み、生きてほしいことを改めて念じます。

【編集後記】

20 周年記念誌は写真が多く、想定より分厚くなった。2000 年に 10 年の記念誌を作っており、写真はそれ以降だ。しかし、組合員からの寄稿が少なく、今後の課題だろう。また、祝賀会開催について、多方面にいろいろご迷惑をかけたことをお詫びします。

1980 年代、新しい労働運動を目指したが、約 30 年の中で、多くの仲間が志半ばで倒れられた。思いは同じだろうが、かなり、少数派で闘う運動の「つらさ」がその根底にあるのだろう。ピースサイクルでもいつも大歓迎をいただいた岡正治さん、松下竜一さん、坂元愛子さん、砂田明さん、松本勉さんなど偉大な先達が先に旅立たれた。あらためてご冥福をお祈りいたします。

恒例では次は 30 周年だが、2020 年の 5 月 27 日になる。社会はどうなっているのだろうか。組合や機関誌は・・・？　私は周りの方々の支えで健闘していると思うが。

現実の職場は、働く人にとって想像を超える厳しさがある。裏を返せば、それだけ世の中が激変時代にはいっていることを意味する。労働者が人らしく生きることは国鉄闘争を見ても困難だ。あとは闘って生きるか。ものを言わず膝を折るかしかない。20 周年はその転換点だ。敵の攻撃や目先の懐柔策、あるいは諸矛盾に各自が足を取られ、大きな目と心の思考を止めてはならない。そのためには一人ではなく、ユニオン全体でやることが重要だ。それが団結あり、労組の原点なのだ。これで歩むしかない。自分の組合、この意識をいつも基本に、頑張ろう！仲間たち。先輩（内川、木下、鴛渕、宮上さん）たちが空から見ているよ。だから、30 年は私に任せろと、後に続く皆様がＶサインで空へお返しをしてほしい。

最後に、記念誌作成はＯＡ機器の力だ。それで言うと、組合結成以前からお世話になっているリコー社のおかげだというほかはない。さらにこの会にお祝いまでいただいた。かさねがさね感謝申し上げます。

2010 年 10 月 30 日

記念誌編集部・中島義雄